公共試験場を利用して を析化に伴い更新の可能性出ています。

お問い合わせリンク

<u>国力でゴムの解析用ひずみエネルギーを構築しませんか。</u>

- 候補日をいただければ調整します。1社4名様くらいまで-

委託測定&定義 298千円/材料~ 自力なら8 材料 (40万円) 程度安価で定義できます。

1. 富山県でご希望の日程で、6時間程度で修得できます。 操作は簡単で、ひな型を使って回帰も簡単です。

※ひな型販売もしています。

2. 公共試験場ですので、安価に、(修得すれば)いつでも ご利用いただけます。

アフターフォローも万全です、問い合わせに回答します。



寺子屋/CAE解援隊

URL https://tera

連絡先 hasi@terakova2018.com 080-2230-8785

- プログラム(案) -

お客様ごとに設定

- 1. 単軸試験実習及び二軸試験実習
- 回帰及び測定手順書事前配布 -
- 1-1 単軸試験:二軸試験をより正確に定義するため、補正用に使用します。 · · · 10:00~10:45 同じ材料は、見方や定義方法は異なっても剛性(真のヤング率)は1つです。

ヤング率E = $6(C_{10}+C_{01}) = (3/2) \Sigma \alpha_i \mu_i$ の関係があります。

%C10、C01:Mooney定義係数、 α i、 μ i:Ogden定義係数

- 1-2 二軸試験: 一軸拘束二軸伸張試験、均等二軸は不要ですので実施しません。・・ 11:00~12:00 材料 2 種類まで (↑) P*に説明資料
- 2. 座学

・・休憩と10分程度説明

 $\cdot \cdot 12:15 \sim 13:30$

- 2-1. 短冊、ダンベルでの単軸伸張試験の注意点
- 2-2. 見かけ上のヤング率についてと単軸試験から二軸係数の補正について
- 2-3. 二軸理論と製品適用範囲

2材料なら13時ころ 終了、昼食

均等二軸試験の必要性とエネルギー関数定義の適用範囲と勘違いについて

※ご希望で、ゴム製造メーカーへ様の上手な問い合わせ方法も提案します。

3.単軸及び二軸試験のまとめ

昼食休憩

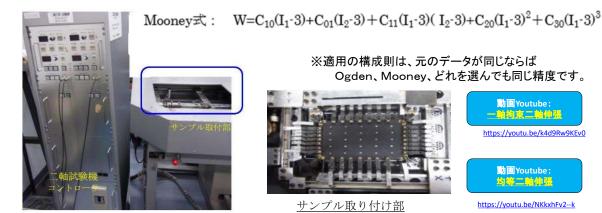
4. 引き続き、測定可(3材料目~測定再開)

この時点で、寺子屋 撤収します。

費用:1名30万円、1名追加+5万円、1材料+3万円/税別 お弁当をご用意or近くの美味しいラーメン屋ご案内。

現地のの二軸試験機

老朽化に伴い更新の可能性あり。



※適用の構成則は、元のデータが同じならば Ogden、Mooney、どれを選んでも同じ精度です。







サンプル取り付け部

https://youtu.be/NKkxhFv2--k

従来の試験機は、横置き型・大型 非常に高価 旧型、富山工業試験場、昭和生まれですがまだまだ現役です。

老朽化に伴い更新の可能性あり。

どれも数学的表現

ひずみエネルギー密度関数 様々な表現式

5) Mooney 高次式

W=C
$$_{10}$$
 (I_1 -3)+ C $_{01}$ (I_2 -3)+ C $_{11}$ (I_1 -3) (I_2 -3) + C $_{20}$ (I_1 -3) 2 + C $_{30}$ (I_1 -3) 3 今回この係数を求める

6) Ogden

$$W = \sum_{i=1}^{n} \frac{\mu_{i}}{\alpha_{i}} \left(\lambda_{1}^{\alpha_{i}} + \lambda_{2}^{\alpha_{i}} + \lambda_{3}^{\alpha_{i}} - 3 \right)$$

7) Arruda-Boyce

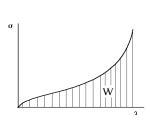
$$W = nk\theta \left[\frac{1}{2} (1_1 - 3) + \frac{1}{20N} (1_1^2 - 9) + \frac{11}{1050N^2} (1_1^3 - 27) + \frac{19}{7000N^3} (1_1^4 - 81) + \frac{519}{673750N^4} (1_1^5 - 243) \right]$$

ひずみエネルギー密度関数

基本式 $W = W(|_1,|_2,|_3)$

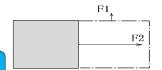
$$\begin{split} &\textbf{I}_{1} = \lambda_{1}{}^{2} + \lambda_{2}{}^{2} + \lambda_{3}{}^{2} & [対角線効果] \\ &\textbf{I}_{2} = \lambda_{1}{}^{2} \lambda_{2}{}^{2} + \lambda_{2}{}^{2} \lambda_{3}{}^{2} + \lambda_{3}{}^{2} \lambda_{1}{}^{2} & [面積効果] \\ &\textbf{I}_{3} = \lambda_{1}{}^{2} \lambda_{2}{}^{2} \lambda_{3}{}^{2} = \mathbf{1} & [体積効果] \end{split}$$





一軸拘二軸伸張試験

基本的にこの変形形態が解析の 予測精度アップに有効です。 ※理由について説明します。



動画Youtube: 一軸拘束二軸伸張

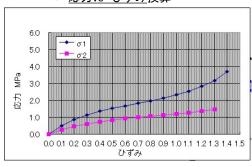




ひずみエネルギー密度関数の回帰

測定した荷重vs変位

⇒ <u>応力vs ひずみ</u>換算



※共に有効断面がポイントで、 どちらも同じ結果

 $\sigma_1 = \frac{2}{\lambda_1} \left(\lambda_1^2 - \frac{1}{\lambda_1^2 \lambda_2^2} \right) \left(\frac{\partial W}{\partial I_1} + \lambda_2^2 \frac{\partial W}{\partial I_2} \right)$

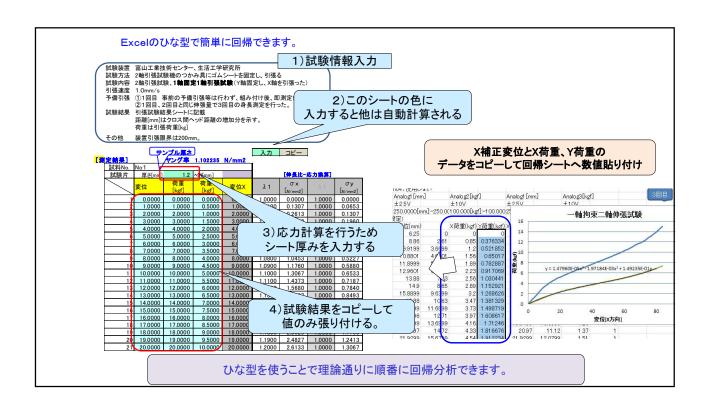
 $\sigma_2 = \frac{2}{\lambda_2} \left(\lambda_2^2 - \frac{1}{\lambda_1^2 \lambda_2^2} \right) \left(\frac{\partial W}{\partial I_1} + \lambda_1^2 \frac{\partial W}{\partial I_2} \right)$

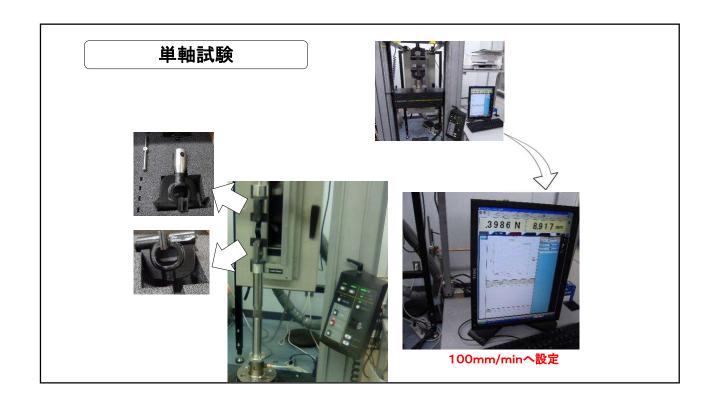
 $\sigma_3 = 0$

 $\frac{\partial \mathcal{W}(I_1, I_2)}{\partial I_1} = \frac{1}{2(\lambda_1^2 - \lambda_2^2)} \left[\frac{\lambda_1^3 \sigma_1}{\lambda_1^2 - (\lambda_1 \lambda_2)^{-2}} - \frac{\lambda_2^3 \sigma_2}{\lambda_2^2 - (\lambda_1 \lambda_2)^{-2}} \right]$

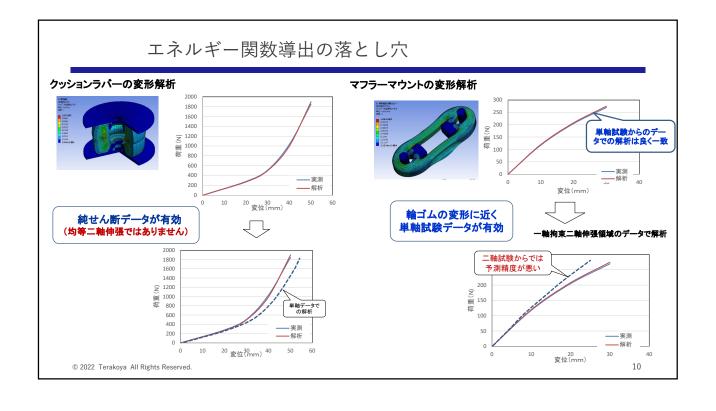
 $\frac{\partial \mathcal{W}(I_1,I_2)}{\partial I_2} = \frac{1}{2\left(\lambda_2^2 - \lambda_1^2\right)} \left[\frac{\lambda_1 \sigma_1}{\lambda_1^2 - (\lambda_1 \lambda_2)^{-2}} - \frac{\lambda_2 \sigma_2}{\lambda_2^2 - (\lambda_1 \lambda_2)^{-2}} \right]$

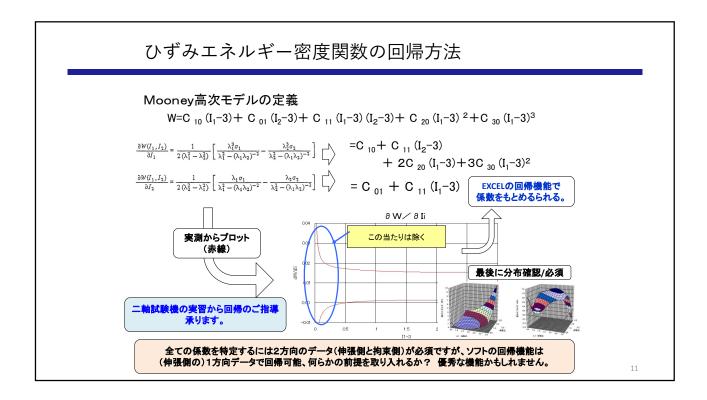
重回帰から係数を求める。

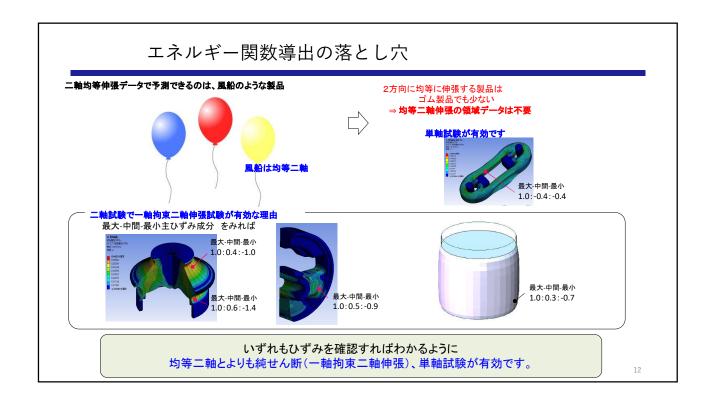




エネルギー関数導出の落とし穴 一軸拘束二軸伸張試験機が有効な理由 /全てのデータを入力すると解析が精度アップというのは間違いです。 良く、単軸、一軸拘束二軸伸張(純せん断)、均等二軸すべてのデータを入力すると 精度が上がるといいますが、間違いではありませんがこれらの式ですべての面をすべて 精度よく表現できるでしょうか。難しいです、1つの領域でも表現できないのに・・・。 片方(均等のみ)データから 推定は、他方の誤差が 均等二軸領域 1)Mooney高次モデル 均等二軸領域 W=C $_{10}$ (I $_{1}$ -3)+ C $_{01}$ (I $_{2}$ -3)+ C $_{11}$ (I $_{1}$ -3) (I $_{2}$ -3) 認識できない。 50,000 一軸拘束二軸領域 + C_{20} (I_1 -3) 2 + C_{30} (I_1 -3) 3 40.000 -軸拘束二軸伸張領域 30,000 20,000 軸領域 10,000 2)Ogdenデル $W = \sum_{i=1}^{n} \frac{\mu_i}{\alpha} (\lambda_1^{\alpha_i} + \lambda_2^{\alpha_i} + \lambda_3^{\alpha_i} - 3)$ 両方の測定データ、式が 不完全な為、誤差は拡大 するが大きくはずれない 一軸領域 一つの領域から求めたエネルギーは、他方の誤差核拡大の可能性あり。 双方の領域から得られたデータは、式が不完全なため双方の誤差拡大。 → 製品のターゲットに合せたエネルギーデータ収集 © 2022 Terakoya All Rights Reserved. 9







兵庫県 工業技術センターでMARC習得しませんか

1日で基本修得でき、その後電話サポートなど。試験場使用料込み20万円~



1日でFEM/MARC-ゴム製品の解析を修得 -タイムスケジュール

週末を利用して、神戸・秋田でMARCを1日で修得しませんか。講習後は、バックアップ万全です。

開発・設計業務にゴムのCAEを効果的に活用するため基礎理論とFEM解析技術を展開

理論、実習面

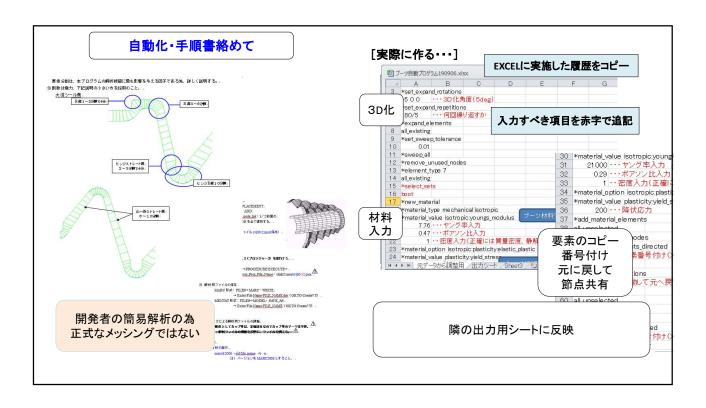
- 1. 解析の基礎 理論及び実習
 - 1) メッシュの作成からモデル化:平面ひずみ、平面応力、軸対称要素の説明と解析
 - 2) メッシングの基本実践と理論:ご要望により調整、解析モデル持ち込み可 メッシュ作成の基本から解析まで簡単なモデル、若しくはお持ち込みモデルでの解析
 - 3)解析結果の見方:ひずみ、応力、荷重たわみ特性、面圧、その他 ゴムの基本として応力評価してはいけない/理論説明含めて
- 2. 解析応用 2D~3次元への展開
 - 1) モデリング手法/拡張 2) 解析条件設定
- 3) 結果の見方と結果を簡単に出力する仕組み
- 2)解析の自動化~CAD自動化への展開 ——
- ここまでAM/実習中心・理論は補助

- 3) 熱膨張及び収縮解析
- 3. 解析の便利機能
 - 1) スムージング解析(回転体など) 2) ズーミング解析:局部の詳細解析への展開
 - 3) 線形解析でも陥りやすいポイント、改善方法

※理論:ゴムのFE解析[書籍]プレゼント、詳細の説明あり。また、オペレーションのみではなく、順次、**解析の基礎及び注意すべきポイント、ゴムの解析用材料データの構築について説明**。

導入検討・即開発適用、25万円+税ですぐに2次元(平面、軸対称)から3次元展開まで使えるようになります。

14



お問い合わせ先

寺子屋 問合せhttps://terakoya2018.com/question

https://terakoya2018.com/ TEL: 080-2230-8785

MAIL: hagi@terakoya2018.com

16